

——旧松下電器産業で家庭用カラオケを企画された後、経営幹部の一員となりました

前川 経営企画室長、本部長としては森下さん（洋一氏）、中村さん（邦夫氏、現会長）の2人の社長にお任せしました。中村さんは織田信長型で、森下さんは徳川家康型、といった印象です。

頂点に立つ人にはそれぞれ



①

れの特徴がありますから、部下もそれぞれの特徴に合わせて仕えないといけないことになる。トップの特徴が時代のトレンドに合うと、その組織は非常に恵まれた環境に置かれます。

——旧松下電器はこれまで社長が6人います

前川 （松下）幸之助さん、正治さん、山下俊彦さん、谷井昭雄さん、森下さん、中村さん、そして今の太坪文雄さん。イノベーション

関西外国語大教授

## 前川洋一郎さん



平成19年、大阪市内のホテルで開かれた松下電器産業の役員OB会で、中央は大坪文雄パナソニック社長。その左隣が前川さん

んなマグマのようなものがあるんですよ。それに、上から引っ張る力もある。松下家と前任社長の2方向から引き上げるから強いんですね。すべて、駅伝経営、どうまくいっています。しかも全員が、区間賞を獲得しています。カラオケテレビ時代、ビデオ時代と、そのたびに（ビデオの）二重規格問題やバブル崩壊、IT革命など山・谷はありましたが、すべて乗り越えてきたんです。

——昨年10月、パナソニックに社名が変わりました前川 創業者の理念というのは心の遺伝子です。悪い遺伝子だったら組織は死

## ものづくりの手触り取り戻そう

でしょう。

——6人の個性と時代が合致したのはまったくの幸運ではないですよ

前川 松下には時代が要請するリーダーを下から押し上げていくというか、そ

んでしまうから、幸之助の遺伝子というのは良かったんでしょね。それをみなで守ろうとしたということだと思います。

その遺伝子とは何か、というと、産業を通して国に

尽くすとか、滅私奉公とかいろいろあって一言では言い表せません。ただ、私は松下電器しか知らないからこう言っているのであって、トヨタにはトヨタの、町の小さな工場にもそれぞれの遺伝子はあると思います。だからこそ長く続き成功しているんでしょね。

——経営の第一線から離れてみて、今の経済情勢のありさまはどう映りますか前川 われわれがおごり高ぶってバブルをもてあそんだ結果です。自然やものづくりの手触り感を取り戻さないといけません。

メーカーは技術開発と原価を下げる努力を続けてメーカーに徹すること。大坪（文雄社長）体制のパナソニックは実直にへこたれずに進むと思います。大坪さんとは録音機事業部ですって一緒だったからよく知っています。彼は、はいつくばってでもまじめに行きますよ。（聞き手 南昇平）

